

オピニオン

中国義務教育段階の道德教育の課題と対策

—道德教育要綱、アンケート調査とインタビューの結果分析を通して

金 海燕*

*桂林理工大学・山口大学東アジア研究科

Issues and measures of moral education in the Chinese compulsory education stage

—Analysis on the outline of moral education and questionnaire survey and interviews

Haiyan Jin*

* Guilin University of Technology / Yamaguchi University

The purpose of curriculum management is not only to realize school educational goals, but also to solve the moral problem of Chinese society. In recent years, the moral problem of Chinese society has been severely criticized domestically and internationally. Today, China has laid out a policy that moral education should be thoroughly carried out from primary school to university, highlighting the slogan to raise the qualities of the people for the development of society as a whole. However, it is unknown if the proposed moral education could penetrate and contribute to achieving the construction of a moral society with specific measures. This paper provides an analysis and discussion of the questionnaire survey on moral and moral education in China. It also clarifies issues of moral education at the compulsory education stage in modern China and concrete improvement measures to develop a moral society.

Keywords : Moral issues, Questionnaire survey, Compulsory education, Moral education

キーワード : 道德問題、アンケート調査、義務教育、道德教育

* 〒753-8514 山口県山口市吉田1677-1

Correspondence concerning this article should be sent to: Haiyan Jin, The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University 1677-1, Yoshida, Yamaguchi-shi, 753-8514, JAPAN

E-mail: haiyan0925_1@yahoo.co.jp

1. はじめに

現代中国は、様々な社会問題を抱えているが、その中でも経済発展の不均衡、教育格差、貧富の拡大が主要なものとなっている（『国家中長期教育改革と発展計画要綱』2010-2020年）。さらに、国民の道德的素養は著しく低下しており、国内外にわたって厳しく批判されるようになった（向 2007 : 66、葛 2015 : 70、劉 2017 : 151-152）。規律を守らない、非常識、無責任、不正、詐欺などが中国の「道德の欠落」の赤裸々な具現となり、若者の人格・社会性の形成が大いに妨げられている（金 2014 : 210-248）。道德問題はこれから中国社会が発展する上での最大の課題であると言わざるを得ない。

ここ 10 年の中国社会における道德問題をめぐって、道德規範、道德建設、倫理道德、道德教育及び道德のリスクなどの視点より数多くの研究が上梓されてきた。向（2007）は道德問題は現在中国発展の最大のボトルネックであり、道德的な束縛がなくては、中国は調和の取れた社会を実現することはできないと述べられている。葛（2015）は中国経済発展の転換期にある社会の特徴について分析され、公共精神、公共意識が希薄化している結果、社会的に「道德冷淡」が広がり始めていると指摘されている。金（2014）は更に教育の腐敗、道德の低下傾向を指摘し、中国の国民性は「道德砂漠」と揶揄的に述べられている。これらの指摘は中国における義務教育段階の道德教育がうまく行かず、そこには大きな問題が存在することを物語っている。

一方、道德教育に関して、日本の木原（1999）は学校教育において、道德に関する知識、情報を頭の中に詰め込んでも、その道德を実行できなければ無意味であり、また知っていても実践できない子供を育てあげても、それは無意味であると指摘される。これは、ルソー（Rousseau, Jean, Jacques, 1712-1778）の教育理論である「学習はすべて経験から始める」に基づき、学校教育における道德教育の実質的な問題に鋭く触れられた論考である。また、田井（2015）は、現代社会における道德教育の必要性について、家庭教育の弱体化傾向、価値観の混乱現象、義務教育段階における道德教育の現状及び日本社会の利己主義傾向など四つの面に分けて学校の道德教育の充実は必要不可欠であると強く主張される。社会的環境の要素に注目された論考として意義深い。日本における二者の論には、いずれも学校教育における道德教育の在り方及び必要性について最も本質的な問題に論点を絞りながら論述されているが、残念ながら、社会環境が学校教育における道德教育にどのような影響を及ぼすか、また相互の連携を通して真の道德教育が果たして実現可能かについての言及はなかった。これについて、中国の檀（2015）は道德教育における社会環境の価値を強調し学

校の道德教育に影響する各種の環境要素についてマクロの視点から分析されている。学校の道德教育による社会環境への働きかけ及び国家による優れた社会環境作りを重要視し、学校、政府及び社会三方の主体性を十分に発揮する必要があると強調されている。道德教育を学校という限定された場のみで考慮してはならないとの問題意識の下で、学校内部と外部のそれぞれが目標を設定し、道德教育のシステム化を図る。学校教育における優れた道德教育の影響を実社会の道德教育に最大限に転化するとともに、学校教育において道德教育の社会環境という現実空間を開発することが肝要であるという氏の上記論調には画期的な意義があろう。また、潘（2010）によると、中国の道德教育はよく道德的な崇高なものを教えようとするだけであって、我々が置かれている現代社会が道德に求められるものについてはあまり考慮しないため、苦境が生じるわけであると述べられている。

そこで、本稿は道德的な社会を実現する上での問題の実態を解明するとともに、義務教育段階における道德教育の現状を明らかにしたうえで、課題解決に貢献可能な視座を提示することを目指す。現代中国における道德教育の課題を問題の発見・検討に止まらず、道德的社会の構築という視点から、学校のカリキュラムを基盤とした道德教育の新方策を果敢に提案した点において本稿の研究価値と意義があろう。

具体的には、第1節の先行研究を踏まえ、第2節では現代中国の義務教育段階における道德教育の実態を道德教育要綱、アンケート調査及びインタビューの結果に基づき概観する。第3節では、道德教育の抱えた課題を簡単にまとめ、第4節では、問題解決の対策を試みる。そして、第5節では、本稿のまとめと今後の課題を述べる。

2. 義務教育段階における道德教育の実態

2.1. 『小学校道德教育要綱』と『中学校道德教育要綱』から見る

これまでの中国の道德教育は愛国主義教育がメインであった□□。1949年新中国の成立時は、マルクス、レーニン主義の政治思想教育が道德教育の主な内容であったが、1980年代からは物質的な豊かさと拝金主義、享楽主義が主流になり、道德教育に政治思想教育だけでは不十分と指摘され始めた（倪 2007：115-116）。そして、1993年には『小学校道德教育要綱』、次いで1995年には『中学校道德教育要綱』が発表された。『小学校道德教育要綱』（1993）の育成目標に政治思想と愛国主義教育以外に「良好な意志、品格と活発で明るい性格を育成し、自己管理と思いやりの気持ちを養成する」などの心の教育の要素を取り

表1 『小学校道德教育要綱』と『中学校道德教育要綱』の主な内容

『小学校道德教育要綱』	『中学校道德教育要綱』
①祖国を愛する教育	①愛国主義教育
②中国共産党を愛する教育	②集団主義教育
③人民を愛する教育	③社会主義教育 (高等学校はマルクス常識と社会主義教育)
④集団を愛する教育	④理想教育
⑤労働、刻苦奮闘を愛する教育	⑤道德教育
⑥学習に努力し、科学を愛する教育	⑥労働教育(労働と社会实践教育)
⑦文明礼儀、紀律を守る教育	⑦社会主義民主と紀律及び法律の教育
⑧民主と法治観念の啓蒙教育	⑧良好な個性と心理資質の教育
⑨良好な意志と品格の教育	
⑩弁証法的唯物主義観点の啓蒙教育	

出所：教育部基礎教育司『中小学校道德工作文献規章要覽』（人民教育出版社、1998年）20頁に基づき筆者作成。

入れた。さらに、1999年からは資質教育が全面実施された（国務院『關於深化教育改革全面推進素質教育の決定』1999年）。2001年には小学校における「品德と生活」（1-2年級）、「品德と社会」（3-6年級）の育成目標にそれぞれ「日々の生活を大切にする」、「人を愛する」などの心を大事にする教育要素が増えている（『義務教育課程設置実験方案（プラン）』2001年）。以下、小中学校の道德教育要綱の主な内容を見てみよう。

表1をみると、『小学校道德要綱』に定められた「道德教育」の内容のうち、②と⑧は政治教育に属し、最後の⑩は思想教育の内容に当たる。それ以外の内容は概ね道德教育の範疇に入る。このような内容は道德教育の基本的な位置付けと特色のある社会主義国家の教育理念に適うが、しかし、①③⑧⑩と⑤の「刻苦奮闘（労苦を厭わなく努めること）を愛する教育」などの抽象的な内容をいかなる方式と具体的な方法を通して子供の心理に最も適応させつつ、学校教育のプロセスの中で実現すべきかが不明である。

また、『中学校道德教育要綱』には中学校と高等学校の二つの部分に分けて

あるが、内容は殆ど変わらない。『中学校道徳教育要綱』は小学校の道徳教育を深化させ、子供の発達段階と学習内容の特徴に則して構成されている。しかし、「我が国の教育内容は基本的に絶対真理の形で表れているので、学生の価値判断力と創造性のある人格の育成に大きなダメージを与えている」（檀 2015:107）と指摘されているように、実際に⑧の「良好な個性と心理資質の教育」がどこまで実現できるかが疑わしい。なお、受験対策を重んじる中国の教育現状の下では、道徳教育に個性発展への配慮及び思考能力の育成に十分な力を入れているとは言い切れない。現実には学年が上がるにつれて、次第に道徳教育軽視の現象がみられる。

更に、小中学校の道徳教育要綱は公布からすでに 20 年以上も過ぎている。それにも拘わらず時代の変化に対応仕切れていない。道徳教育の内容に対する検証も必要ではないかと思われる。例えば、小学校道徳教育の内容にある「③ 人民を愛する」は抽象的過ぎて今日の時代状況におかれた現代の子供には実感しにくいところであろう。さらに、小中学校両方にある「労働教育」も同様で、子供にとっては「労働」という場が想像できないところがある。小学校にある「刻苦奮闘を愛する」は現在の子供の生活状況にそぐわない内容である。なぜならば、現在の社会生活環境は「刻苦奮闘」しなければならないという状況ではなく、ある意味では現在の教育目標の「個性の育成」とは対立するものであるからである。敢えて教育現場において「刻苦奮闘」を浸透させようとするならば、それはいかにも形式主義に近いと言わざるを得ない。道徳教育要綱所定の教育指針によって一国の道徳教育の未来像が決められることを考えると、今日の社会発展及び社会問題を根幹に据え時代の特徴をもっと示せるように、道徳教育の内容を見直すことが必要であろう。

2. 2. アンケート調査の結果から見る

筆者は 2018 年 5 月から 7 月にかけて「道徳、道徳教育の状況に関するアンケート調査」（具体的な質問項目などは、巻末資料を参照されたい）を行った。

1. 調査の目的

本調査は、中国遼寧省を調査範囲とし、道徳及び道徳教育の状況、ニーズについて把握することを目的とする。

2. アンケート調査の構成

- (1) 調査の対象：中国遼寧省にいる学校の教師、保護者、中学生、小学校 3 年級以上の児童、その他（大学生と社会人）。
- (2) サンプル数：調査対象（1000）人

中国義務教育段階の道德教育の課題と対策

- (3) 調査方法：ネット上調査（Wechat 操作回答）
- (4) 調査期間：2018年5月20日～2018年7月20日
- (5) 調査範囲：中国遼寧省

3. 調査の内容

- (1) 対象者の属性について
- (2) 学校の道德教育の現状について
- (3) 家庭教育の状況について
- (4) 社会における道德行為・行動について
- (5) 道德における諸観点について

4. 回収状況

サンプル数 1000 人分回収。

5. 調査地域・対象および調査方法

本調査はできる限り範囲を広げ、遼寧省全地域に波及するよう、都市部と農村部の格差をも視野に入れ、行ったものである。遼寧省には 14 の省轄市と 44 の県（県級市を含む）で構成されている。全省各地域に教え子をもつことを十分に活用し、大学時代の先生と同級生及び現職の教師を動員し、自分の子供の同級生の保護者達にもお願いをして、調査を行ったものである。

以下の図、表データはこのアンケート調査をもとに、まとめたものである。

表 2 調査対象者数のクロス集計表

	人数	パーセンテージ
教師	137	13.7%
小学生	38	3.8%
中学生	85	8.5%
保護者	302	30.2%
大学生と社会人	438	43.8%
合計	1000	100%

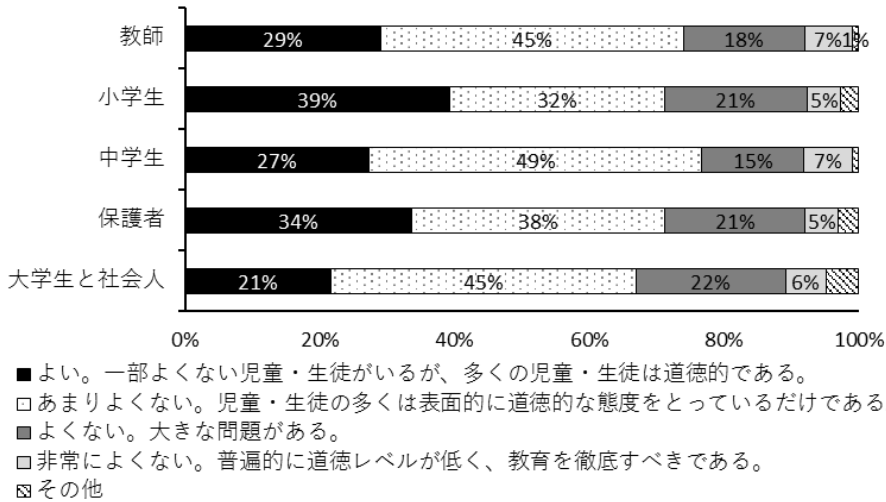


図1 現在の小中学生の道徳的な状況について

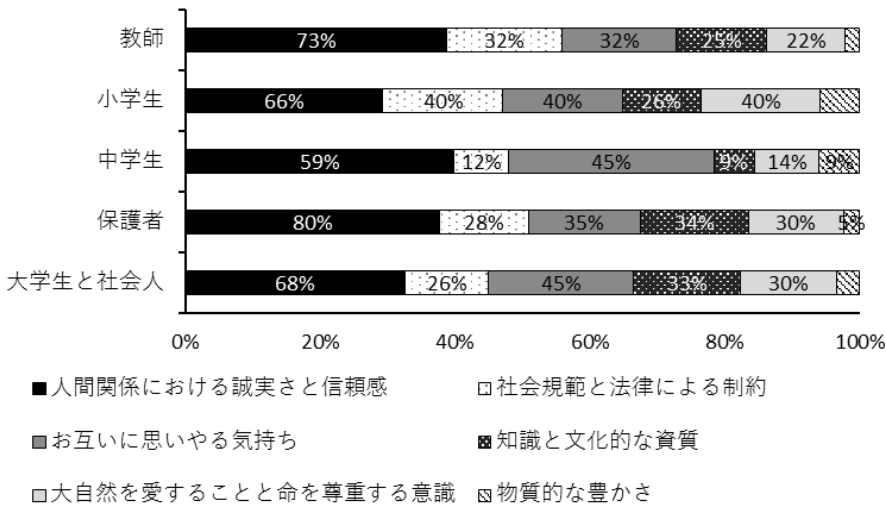


図2 現代社会において最も欠けているものについて

現在の小中学校の道徳的な状況は図1に示した通りである。「よくない。大きな問題が存在する」という回答が最も多い。中でも回答者の比率をみると一番多いのが中学生で、その次が大学生と社会人、教師という順である。この中で、大学生と社会人は社会を観察できる環境におり、教師は学校において直接に生徒と接する立場にある。このことから大学生、社会人、教師は問題を客観的に認識できているのだと思われる。そして、「あまりよくない。生徒の多くは表面的に道徳的な態度をとっているだけである」も比率が相当高いことから、

中国義務教育段階の道德教育の課題と対策

生徒がどこに道德上の問題があるかが分かる。「表面的に道德的な態度をとっている」とは、人前で見せる道德であって、道德的な行為に転化したものではない。しかし、これは学校教育だけにおける問題であるとは言い切れず、社会的要因を含めて様々な要因があるように思われる。子どもの活動する地域社会の道德的状況及び道德教育への意識的な関わりなどに深く関連していると推測される。

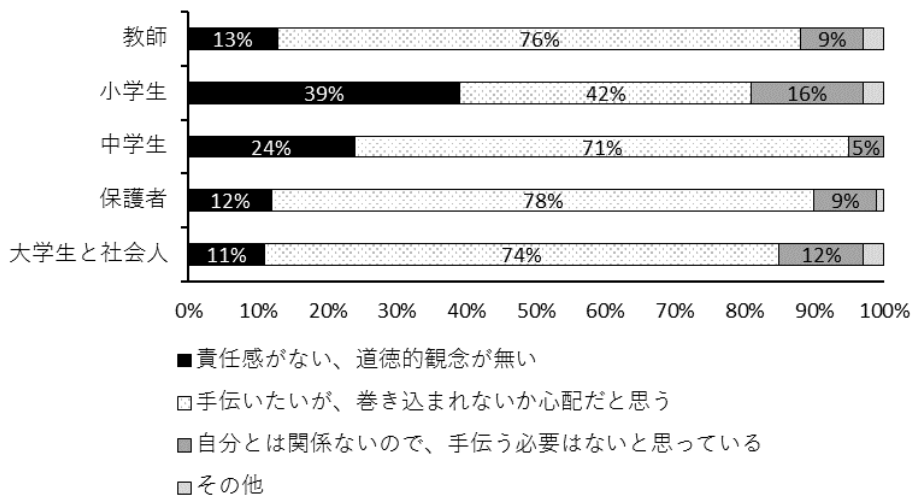


図3 緊急事態におかれている人を助けたり手伝わず傍観したりする人についての理解

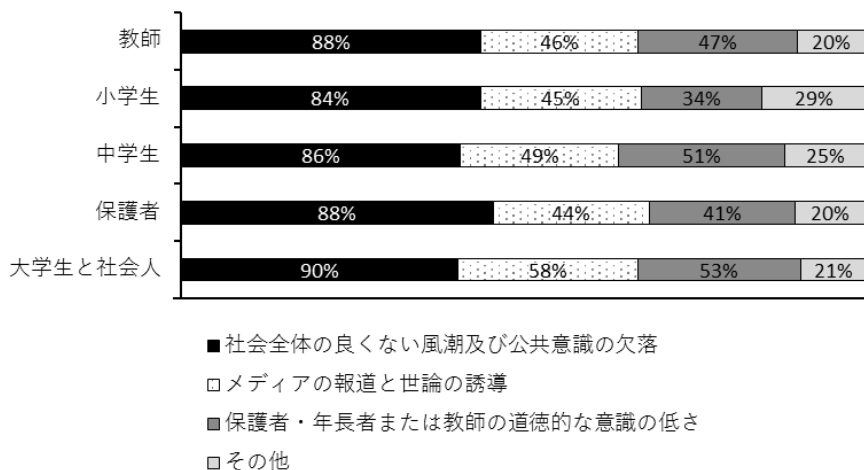


図4 道德的な意識が欠落している原因

「中国の現代社会において最も欠けているもの」は図2に示した通りである。この図は、「現代中国社会に最も欠けているものは人間関係における誠実さと信頼感である」ということを示している。回答者の中では保護者と教師の比率が一番高い。これは現実の社会生活で最も切実に感じた問題であると考えられる。そして、次に多いものは「お互いに思いやる気持ち」という回答で大学生と社会人及び中学生の比率が最も高い。これはある意味では人間の発達段階において最も敏感に感じやすい世代に関係していると思われる。本来「誠実と信頼感」、「思いやり」が最も基本的な道徳基準の一つであるべきである。しかし、調査結果からみて中国社会においてこの基盤的なものが崩壊しつつあることが分かる。

図3は「緊急事態におかれた人がいる場合、助けたり手伝わず傍観したりする人はどんな心理だと思いますか」という問いに対し、「手伝いたいが、巻き込まれないか心配だ」と回答した人が最も多い。このことから社会風潮の影響力がいかに大きいか分かる。道徳的社会の風潮確立、文化の形成には個人の道徳的行動力と自律心の向上、さらに公共意識を高めることが必要不可欠である。「文化」はその国、もしくはその社会に特有なものであって、そこに住む人々の行動様式と深く関わっているということはよく知られている（中里1997:4）。

また、図4からは、道徳的な意識が欠落している原因は社会全体の良くない風潮及び公共意識の欠落に大きく関わっていることが読み取れる。つまり道徳的な素養に対する評価の低さ及びそのように評価する根拠として「社会風潮」と「公共意識の欠落」と認識しているのである。

以上の調査を通して、小中学生の道徳的な状況に大きな問題が存在することと現代社会に誠実さと信頼感が最も欠落していることが明らかになった。さらに、これらの道徳上の問題は社会風潮に大きく影響されることも判明した。従って、社会全体の道徳観を醸成し、全民族の道徳意識の向上を図ることが求められている。そのために、義務教育段階における道徳教育の在り方を検討することが喫緊の課題となる。

2. 3. インタビューの結果から見る

上記の分析を踏まえて、筆者は2018年10月に小中学校の生徒や教師などを対象にインタビューを行うことにした。具体的には、機縁法を用いて構造化されたインタビュー方法で、「あなたが現代社会において実感された非道徳的な行動について教えてください。」という質問に対して、身分、年齢別に11人の

中国義務教育段階の道德教育の課題と対策

回答者の多数の回答のうち、最も典型的であると思われるものをまとめたものである。このインタビューは上記アンケート調査より得られた回答(図1、2、3、4)を意識しながら、現状問題をさらに明らかにしていくことがねらいである。以下では、インタビューの結果(表3参照)に基づき、道德問題の実態をさらに掘り下げていく。

表3 非道德的な行動表現

調査の対象者	具体的な表現
小学校4年生(10歳)	大人が勝手にたばこの吸い殻を捨てたり、汚い言葉を使ったりしている。
中学校3年生(15歳)	バスの中で若者が席を譲らなかつたことで、年配者に殴られた。
高校1年生(17歳)	スーパーでセールするとき、ものを奪いあい喧嘩になる現場を見たことがある。
保護者(39歳)	子ども連れなのに、わずかな利を得るために、入場券を買わない。パレでも、堂々と言い訳する。
中華料理店経営者(45歳)	横断歩道で歩行者を優先することなく、車のクラクションを鳴らしながら走る。
会社員(26歳)	運転中、急に前の車の運転席の窓からペットボトルやたばこ箱が投げ出されることをよくみられる。
公務員(38歳)	韓国の空港でたくさんの化粧品の箱を捨てたまま去っていくのを空港の従業員に何度も注意されても無視して去った。
小学校教師(44歳)	子どもは学校では紀律規則をちゃんと守れても、学校から出ると様々な道德問題が発生する。最も簡単なことで自分のごみを責任をもってゴミ箱に入れることさえできない子どもがいる。
中学校教師(40歳)	学校によって、中学生が物を盗んだり、先生と喧嘩したりする人がいる。
大学教師(51歳)	ペットの飼い主が散歩中の子犬の糞を清掃しないまま、去っていくことがよくある。
海外住まいの中国人(49歳)	利益のために毒のある食品を生産、販売するなど極めて非人道的な信じられない行為がある。

注：1、インタビューは2018年10月に不定期的に行い、すべて対象者の実経験からの報告である。

2、インタビュー内容の日本語訳は筆者による。

上記の表 3 において報告された内容は社会全体の非道徳的な行動慣習の一部ではあるが、具体的な社会現象の一環であると認識している。自己利益を優先的に追求する行動からは公共意識の欠落が起こり、結局それが社会公共生活の中で幸福感を感じられないという矛盾につながっている。まさに現代中国人は思いやり精神、公共的意識を持たない、自己都合、自己利益を最優先に追い求めると同時に、道徳的な公共社会環境を渴望しているという極めて矛盾を内包した状態である。このような考え方・行動は家庭教育にもしばしばみられる²⁾。子どもの教育においては「自分が損してはいけない」という価値観が根深い。「公共」と「私」の利益の前で、利己主義の価値観は必ず「私」的行動に転化してしまう。しかし、社会の一員として国や社会に対して負うべき責任と義務を意識しないことは非常に危険なことである。現在の中国は「道徳危機に立つ国家」であるという危機感を感じ、倫理観の低い社会風潮の是正に力点を置くべきであるということを強調したい。

そこで、上記のような社会現状をもとにして、これまでの道徳教育を徹底的に見直すとともに、思いやり精神と公民意識の養成を強化しなければならないと思われる。

3. 中国義務教育段階における道徳教育の課題

小中学校の道徳教育要綱の分析及びアンケート調査とインタビューの結果分析から得られた現代社会の様々な道徳的問題は、中国義務教育段階の道徳教育に多大な問題が抱えていることを示唆する。

(1) 教育内容の現実離れ 現行の小中学校の道徳教育要綱の教育内容の一部が現実社会と離反していることが明らかになった。従来の愛国主義、抽象的な政治教育及び知識主義である道徳教育方針はすでに道徳的な現代社会作りにそぐわないと言えよう。今後は従来の道徳的な判断だけではなく、子どもの実際の行動に焦点をおき、品格養成を強調する道徳性の育成が必要となる。国際的視野から価値多様化社会のニーズに従い、現代社会の道徳問題を考慮する教育内容の修正が求められる。

(2) 心の教育の欠如 心よりの道徳的な思考と行動が実現可能な心の教育を重視すべきである。小中学生の道徳的な状況に関する調査結果を通して、多くの生徒は表面的に道徳的な態度をとっているだけであることが分かった。このような結果から、今日までの道徳教育を反省すべきであると思われると同時に、心の教育の大切さを正視し、心よりの道徳的行動が実現可能な真の道徳教育を吟味しなければならないと考えられる。道徳教育は規律・規範そのものを教授

する「教える教育」で済むべきではない。心の感動、共鳴できる教育でなければならない。心の共感による道徳的な行動に転化しない限り、道德教育は無意味である。

(3) 学校と地域社会とズレ 道徳的社会の実現を目指して、学校と地域社会の緊密な連携・協働を生かした実践的な道德教育の展開が必須である。非道徳的な社会風潮の指摘が圧倒的に多いこと、学校で学んだことと現実社会にズレがある現状から、これからの道德教育は学校だけでは不十分であり、地域社会が全体として道徳的な環境作りに学校と協働・協力の姿勢を取らなければならないことを物語る。地域社会自体が人格の溢れる場となり、学校教育とともに国全体の道徳的な発展に貢献しなければならない。

(4) 公民意識の欠落 様々な道徳的社会問題の背景には、社会公民意識の欠落が嚴重な問題である。これまでの道德教育は伝統的な道德教育と公民教育を区別せずに行われている。公民素³⁾の養成が重要視されない結果、社会全体において非道徳的な行為が増える一方である。自己利益を過度的に強調し、思いやり精神、公共的意識を持たない社会現状について国内外から批判の声が絶えない。社会発展とともに公民教育は必然的なものとして必要となる。現在、中国は社会発展とそのニーズに応じた公民養成を確実に進行していくべきである緊要な時期になっていると思われる。

中国義務教育段階における道德教育の指針、理念及び方法の改革が喫緊な課題となる。

4. 義務教育段階の道德教育の改善策

4. 1. 心の教育を大事にする道德教育

デュルケーム (Durkheim) の道德性の理論に従って、沼田 (2009) は道德性の要素を「規律の精神」、「社会集団への愛着」、「知性に基づく意志の自律性」とまとめられた。人間は社会集団を離れて生きていけない限り、個として、社会集団に愛着を持ち、社会の規律性を遵守し、理性的な意志としての自律性が求められる。しかし、個の理性的な自律性を担保するためには、感性的な自律性が道德教育において求められているのではないかと思われる。道德に適しているのは「知性的な意志」よりも、むしろ「こころ」のような感性的な原理かもしれない。また、その原理に基づいた道德をもっと真剣に考える必要があると言われた (沼田 2009 : 16-17) ように、人間の内面性と主体性の存在である心を首位に置いた道德教育が必要であろう。

一方、これまでの中国の道德教育においては、規律の遵守と政治思想の教育

を重んじる傾向が強く、自然との調和、命の尊さ、思いやりの気持ちなど心の豊かさへの配慮と教育が欠けている。さらに言えば、これまでの教育内容は机上の知識、概念として覚えさせることが一般的であった。中国は資質教育の提起とカリキュラム改革を経て、新しい教育理念の下で詰め込み式からの変革が求められているが、脱却できたとは言えず、道徳教育は依然として机上の勉強の延長線上にある。80年代から蔓延した成績至上主義の影響で、心の教育より知的教育のほうが遥かに重要視されてきたことは否定できない。落合(2014)は「心は、あらゆる人間の活動の基礎となっている。従って、結果としての人の行動、考えの基準、あるいは判断は、心によると言える」という。現代中国では、まさに心の教育の意義を再検討することが、義務教育段階における道徳教育の緊要な課題であると言える。

以上より、今私たちは心を育てる道徳教育の意義を正視し、「心」を主体に置く道徳教育の実現を果たすことに努めるべきであろう。現代中国の道徳教育は「公共精神」、「思いやりの気持ち」、「命に対する畏敬」という道徳教育の思想内容をただの概念としているだけではなく、その思想内容の尊さを体験させる4)ことが必要不可欠である。道徳の授業は、子どものさまざまな体験を「補充、深化、統合」のために始まると言われる(池田 2009 : 73)。非道徳的な社会風潮がさらに拡大されないように、義務教育段階の道徳教育の改善を一層促すべきである。

さらに、学校教育だけではなく、家庭教育、地域社会での教育においても心の豊かさを求める本質的な心の教育の意義を再確認し、良心と習慣化によって道徳的判断ができる心まで文化の形成に努めなければならない。

4. 2. 学校と地域社会が連携・協力した実践的な教育の強化

先述したように道徳教育は、道徳教育が目指す思想内容の尊さを体験させることに意義がある。中国における学校教育には未だに保守的、閉鎖的部分が残っている。というのは、学校と社会の乖離現象は基礎教育ばかりでなく、中等教育と高等教育にまで一般的にみられるからである。学校は社会の実態を知らず、社会は学校を唯一の教育機能を果たす機関として期待しすぎている。将来、社会人として活躍を期待される子どもたちではあるが、学校と地域社会という異なった社会の中で様々な葛藤・矛盾のジレンマ状態に置かれている。極論すると、社会は学校で学んだこととは別世界であるといってもよい5)。子どもが生活している地域社会自体に大きな問題が存在している。子どもが自立した社会人となるためには、発達に応じた知識、技能を習得し、行動規範、生活能力

を身につけ、思考力と判断力を高める必要があるが、これらすべては社会から学んで行くものである。子どもが一人前の社会人になるためには、社会という大きな環境を離れては成り立たない。地域社会は学校教育を支える極めて重要な存在である。しかし、高度な経済発展は地域社会の物質的な豊かさと便利で心地よい生活様式を実現させたが、地域社会のあるべき教育環境を提供する機能を果たしていない。学校においていくら必死に道德性のある人材の育成に努めていっても、現実には中途半端なものに終わっている。学校と地域社会のパートナーシップの強化を真剣に考慮すべきである。

学校は知的教育の場であり、地域社会はその知的内容を確かめ、検証する場であろう。地域社会は学校と同等に高度な教育力をもつ存在でなければならない。中国における教育改革はただ学校の内部改革で済まされるべきものであってはならない。学校教育に関わる全ての機関と緊密な連携を取ることが必要である。そして学校教育を中心として、社会と家庭が積極的に学校を支える支援の枠組を形成するのである 6)。子どもたちの社会参画を実現させ、様々な社会体験と地域の人たちとの触れ合いの中で社会人としての資質を形成し、社会認識を高め、社会人として相応しい能力を身につけさせていくべきである。社会及び家庭を学校と同等な教育力を持つものにしていくことが教育改革の成果及び国際競争で勝ち抜ける人材の育成につながる。

よって、学校と地域社会が上手に補完し合い、地域社会の在り様を大きく変え、教育力を着実に高めていく方策 7)を考えねばならない。中国においては、もっと広い意味での学校支援を図って、子どもの社会参画を積極的に取り組む必要がある。このような考えに基づき、次のように提案したい。

学校が主体となって、子どもたちの目線から発見する地域社会の非道德的な行為、生活環境への不満、意見などを網羅し、個々の学校が責任をもって子どもたちの考えを整理して対応策をまとめさせる。それから地域の義務教育を司る行政機関の教育局に報告案を出し、教育局によって各関連部門と協力させ、具体的な対策プランを作り出し、改善に向けて有効に取り組ませる。その一環として、学校と地域社会が子どもと地域社会の人々とのミーティングの場を設定する。その中身は様々な対談内容を設けることと、定期的で開催することである。つまり、図 6 で示したように学校と地域社会の教育機能を連携させ、家庭教育を含めた「三位一体化」を実現させる。特に、学校と地域社会の連携と協力については、その内容、方法をいかにカリキュラムと関連させ、さらにシステム化させていくかという新たな教育制度の制定が緊要な課題になると思われる。このような体系作りの結果、子どもの道德的価値観は健全に形成され、

成熟していく。また、地域社会の道德意識、市民の子どもに対する配慮、関心も次第に高まっていくことが期待できる。

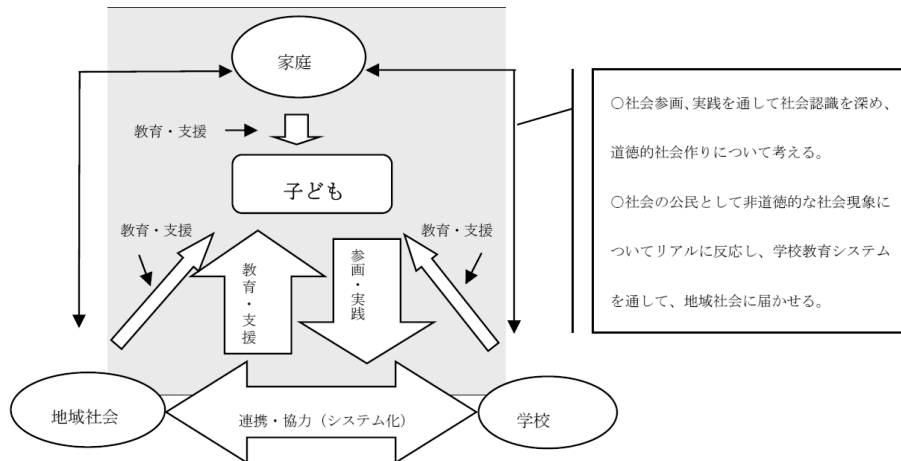


図6 教育機能の一体化

出所：筆者作成

4. 3. 学校と地域社会が連携・協力した実践的な教育の強化

中国社会及び個人の道德問題は近年国内外において様々な形で指摘、批判を受けてきた。今の現実については社会全体がもっと敏感にとらえ、対処しなければならない。公民教育と学校教育の在り方を切実且つ真剣に考えねばならぬ時期に入っていると思われる。

「重慶万州公共バス転落事件」⁸⁾は中国の現実社会の赤裸々な反映であると多方面から注目を集めている。命の大切さへの無頓着と規律規則の遵法精神が如何に乏しいかを物語っている。中国現代社会は恐らく次の4点のように纏めることができよう。①自己中心的であり、自己利益を最優先に考えがちで他人を尊重する意識が希薄である。②規則規範に対する遵法意識が希薄である。③正義を重んじる精神が乏しい。④社会の一員としての強い責任感と公共意識が欠落している。

すなわち、公民として最も大切な権利と義務についての意識が希薄である。公民権利を自由に且つ正しく発揮して自己を保護することができず、公民義務を規定通りに履行することもできていない。

この意味では、学校教育において、個人の道德素養の養成だけでは不十分である。よって、公民教育を強化し、公民としての意識及び相応の公的資質の向上が求められる。学校教育の中で、公民としての権利の行使と義務の履行意

識を高めるような教育を行い、子どもを優れた公民として成長させることは社会全体及び国全体の発展に大きな意義を持つ。世界各国、特に先進国は公民道德教育を高度に重視している。これは現代教育の特徴と主流となっている（檀 2011 : 3）。

しかし、中国における公民教育は独立した教科内容として施行されていない。長い間道德教育の中で公民としての資質と能力の育成が提唱され、伝統的な道德と公民道德を区別しないまま、行われてきた。楊ほか（2015）は「伝統的な道德教育は法制法規の遵守という意味で公民としての基本条件を保証しただけで、実践的な面で公民道德意識の強化を定着させ、社会主義の担い手の養成にまで行けなかった」と指摘される。公民教育は伝統的な道德教育よりも社会的使命と責任が問われ、個人の道德資質を超えたより高い目的性のある教育である。公民教育は国民の自由、平等、民主、法制という価値観の養成であって、公正かつ民主的な国の形成には極めて重要な部分である。経済の発展、社会の進歩、国際化の深化に伴い、公民教育への重視は必然的なものとなっている。現代中国における公民教育について檀（2010）は公民教育が特別に重要であるというのは、公民教育を行うことは教育目標と教育性質の全体変化を意味している。その具体的な内容はまず独立した人格の形成であって、その次が理性的に、積極的に社会公衆建設に参画することであると述べられた。

そこで、義務教育段階の学校における公民教育の実践方法として以下のような試みが考えられる。公民教育の在り方について、学校の「地方課程」⁹⁾という教科を十分に活用して、公民教育を着実に学習させるべきであると提案する¹⁰⁾。「地方課程」の育成目標を列举してみると以下のようなものである。

- ①児童・生徒が家庭、学校、社会生活に必要な知識・技能を身につける。
- ②自己と他人、自然、社会との関係について正しく対応する基本方法と能力を身につける。
- ③健康的な行為習慣と生活方式、良好な心理資質を養う。
- ④学生を自主、協働、探究的な学習に導き、創造する精神と実践能力を養い、学習力と情報素養(判断力)を高める。
- ⑤公民意識と法治意識、自然環境に対する意識を育成し、社会に対する責任感を高め、国際的視野、国家感情を有する児童・生徒の全面的な健康発達を促進する。

この中の多くは公民として必要な資質の養成が構想されている。特に、⑤の目標設定は公民教育そのものであると思われる。また、「地方課程」の特徴は地域社会との十分な連携と実践活動の重要性を目指している点である。この点

を活かして「地方課程」を公民教育の実施ルートとし、学校教育で強化していくことが最も適切であろう。小中学校における道徳の時間の教育とは区別し、独立した教科内容として取り上げる必要があると考えられる。このような構想に至った理由は三つである。その一は、今まで「地方課程」の機能が十分に果たされていないことが挙げられる。これまでの「地方課程」は各地方において柔軟な態勢で取り扱われてきた。その結果、すべての学校において確実に重要視し実践されることなく現在に至っている。その二は、義務教育段階において公民教育の重要性も理解されていないことである。カリキュラム実施に問題が生じる原因は様々であるが、これからは課程設置の意義を十分に理解し、公民教育の目的を明確にすることが大切である。その三は、道徳教育と公民教育は一定の関連があるものの、学校教育の中では同一視されて実施されることが多い。檀（2007）は小中学校において道徳教育でありながら、内容的には公民教育であって、公民教育のスローガンを挙げながら伝統的な道徳教育を行うという二種類の公民教育が実存すると指摘されている。黄（2009）も学校の道徳教育は公民教育、道徳教育と思想政治教育が混在しているとされている。2氏はいずれも公民教育と道徳教育の混在状況を指摘され、望ましくない意向を示されると同時に、道徳教育の中で公民教育をより強調すべきであることを主張されたが、義務教育段階における公民教育の位置付けと在り方については残念ながら具体的に触られていない。筆者は2氏の観点を認めながらも、公民教育は伝統的な道徳教育と区別し、義務教育段階における現有教科を有効に活用して独立した内容として行うべきであると主張したい。その切り口として前述のように義務教育段階の「地方課程」の時間を十分に生かすことが有効であろう。そして、他国の公民教育の実態を調査し、中国の国情に合った視点で実践と研究を進めることが国益にかなうと思う。一層の研究が求められる。

5. まとめと今後の課題

本稿は、道徳的社会の実態調査を通して問題発見に至り、具体的な問題解決策を提案する視座で研究を進めてきた。現行の小中学校道徳教育要綱の内容と社会の現実を把握した上で、道徳的な社会の向上を図って、現代中国の義務教育段階の道徳教育の在り方を分析・検討してみた。

その成果は以下の三つに要約される。

第一に、義務教育段階の道徳教育の根本は心の教育にあるべきであることを、小中学校道徳教育の目標理念と現状を照らし合わせて明らかにした。これまで道徳目標の実現を目指したが、効果の伴った具体的な方策の実現にまで至っ

ていないのである。

第二に、このような問題意識の下に、従来の道德教育で一般的に行われていた座学の学習を脱却するとともに、社会的実体験から得た道德目標の総合的実現を提案する。これまでの論調には体験学習の主張が多いものの、学校教育だけに止まったことが限界であった。本稿では体験学習を学校内に留まらず、教育体系として学校と地域社会の連携を強化することが現状打破につながることを確認した。

第三に、道德的社会的構想に適した公民教育が今後の中国における道德教育の喫緊の課題として捉えられた。そして、学校に現有するカリキュラムを通して、公民教育の実現可能なアプローチへの展開を模索してみた。「地方課程」を基盤としてカリキュラムの機能を最大限に発揮させる構想は発展的である。

経済的発展と進化に伴って、中国社会の道德的進化が差し迫った課題となりつつある。教育は国を変えられるといわれるように、義務教育は教育全体の基盤であり、一国の教育システムの根本である。今後も義務教育段階の道德教育に関する継続的・発展的な実態調査を続けながら、この問題に取り組みたいと思う。

謝辞

本稿の執筆にあたり、鈴木宏先生（山口大学講師）、本間和行先生（新潟小針中学校元教諭）、小笠原靖さん（アドバタイジング真（有）代表取締役）、石龍潭先生（山口大学教授）よりたくさんのご指導と貴重なコメントをいただきました。記して心より感謝を申し上げます。

注

- 1) 『小学校道德教育要綱』（1993）、『中学校道德教育要綱』（1994）及び『愛国主義教育実施要綱』（1994）にはいずれも教育の愛国主義を強調し、教育の重点は特に全ての青少年に対する教育であると規定されている。
- 2) 筆者の子育て経験から出会う様々な保護者の言動の見聞をもとにしている。
- 3) 公民素養（公民的資質）とは、平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすることなどの態度や能力である（文部科学省『小学校学習指導要領

解説 社会編』(2008)。これ以外の観点も多いが、具体的には唐木清志『「公民的資質」とは何か—社会科の過去・現在・未来を探る—』(東洋館出版社、2016年) 8-158頁、宮本光雄『社会科教育の本質に関する研究—社会認識と公民的資質の関係性を中心に—』(風間書房、2011年) 406頁などを参照されたい。

- 4) 日本の学習指導要領は集団宿泊体験と職場体験、自然体験及び各種のボランティア活動、地域社会との交流など様々な子どもの体験活動を通じた道徳教育が充実している。また、現実的に教育現場において、実践活動を通じて道徳的な理念を習得させようとしていることに日本の道徳教育の素晴らしさがあり、現代中国においてこの成功事例を取り込むことで真の心の教育を実現できると思われる。
- 5) 筆者の子どもが類似なことを言ったことがある。「学校では環境を大事にしよう、ごみはちゃんとごみ箱に、順番待ちのときはちゃんと列になって待つと教えてくれたが、なぜ大人はそうではないか」と。
- 6) 日本の長野県青木村は「子ども一人を育てるためには、一つの村が必要だ」を合言葉に、保育園から中学校まで、信州大学をはじめ地元の大学生の支援を得ながら、地域の大人が子育てと学校教育に参画する試みを進めた。残念ながら、中国が日本の青木村のようになるまでにはまだまだ長い時間がかかりそうである。優れた教育は優れた社会基盤が必要であることを強調したい。
- 7) 例えば、日本は地域社会の学校支援に関連して、2008年度からモデル地域を選定して教育サポーターという支援措置を始めた。文部科学省(2008)は制度の趣旨について「地域の人々、学校や社会教育施設等の教育関係機関、教育委員会等が連携して教育サポーターに関する取組を進めることにより、地域人材の発掘、人々の地域活動の活発化や活動内容の高度化、活動の場の創出等が図られ、地域の教育力の向上や生涯学習の推進につながることを期待されます。」と説明した。
- 8) 2018年10月28日中国重慶市万州で公共バスが乗客と運転手との喧嘩が主因で、長江橋から川に転落し、15人が死亡した。
中国新聞網 <http://www.chinanews.com/sh/2018/11-03/8667151.shtml> 2018年11月4日アクセス。
- 9) 地方課程：中国の義務教育段階におけるカリキュラムは大いに「国家課程」、「地方課程」、「校本課程」との三つに分けられている。「地方課程」は地方の経済と政治、文化の発展によって地方の特徴を十分に活用し、実施するカリキュラムのことであって、週間2回の授業となっている。

10) 檀传宝は「公民教育:中国教育と社会の整体転型」という論文において、地方課程と校本課程を利用して公民教育を構想し、国家課程の不足を補うことができると言及されたことがあるが、実際の課程分析と実施方策については提案されていない。

参考文献

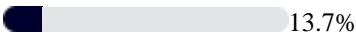
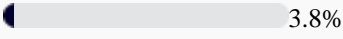
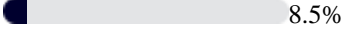
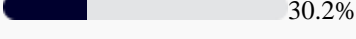
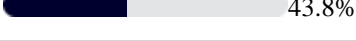
- 葛晨虹(2015)「中国社会転型期面臨道德問題的解讀与思考」、『齊魯学刊』第1期,70-73頁。
- 黄崑他(2009)「近十年公民教育研究的回顧与展望」,『清华大学教育研究年』第1期,110-116頁。
http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/moe_177/tnull_2478.html (2019年2月9日アクセス)
- http://www.gov.cn/jrzq/2010-07/29/content_1667143.htm (2019年2月9日アクセス)
- 池田全之(2009)「自然や他者を大事にすることは自由と両立するのだろうか」,『道德教育21の問い』福村出版,73頁。
- 木原孝博(1999)『道德教育』放送大学教育振興会,18頁。
- 金文学(2014)『進化できない中国人』祥伝社,230-235頁。
- 劉欣怡(2017)「重構与引导:用教育喚起紳士般的社会公德—由中国道德之現状引發的对道德問題的審視」黒河学刊第233期第5号,151頁。
- 宮本光雄(2011)『社会科教育の本質に関する研究—社会認識と公民的資質の關係性を中心に—』風間書房。
- 文部科学省(2008)『教育サポーター制度の普及に向けて』文部科学省。
- 倪冬岩(2007)「中国における道德教育の動態」現代社会文化研究 NO38,115-116
- 中里至正他(1997)『異質な日本の若者たち—世界の中高生の思いやり』ブレーン出版,4頁。
- 沼田裕之他(2009)『道德教育21の問い』福村出版,14-16頁。
同上掲,16-17頁。落合正行(2014)「こころの教育とは何か」,『追手門学院大学教育研究所紀要』第32号,161頁。
- 潘希武(2010)「道德教育的現代性:西方的境遇与中国的問題」,『教育學術月刊』,第7期,20頁。
- 田井康雄(2011)『これからの道德教育原理—「道德の教科化」を見据えて—』学術図書出版社,1-3頁。
- 唐木清志(2016)『「公民的資質」とは何か—社会科の過去・現在・未来を探る—』東洋館出版社。
- 檀传宝(2015)『学校道德教育原理』教育科学出版社,192-228頁。
同上掲,107頁。

- 檀传宝 (2011) 「努力加強 “公民道德的教育”」, 『人民教育』第 24 期,3 頁。
- 檀传宝 (2010) 「公民教育:中国教育与社会的整体轉型」, 『中国德育』第 12 期,7-8 頁。
- 檀传宝 (2007) 「当前公民教育应当關切的三個問題」, 『人民教育』Z3 期,4-6 頁。
- 向文波 (2007) 「道德問題是中国發展的最大瓶頸」, 『法人雜誌』第 10 期,66 頁。
- 楊広暉他 (2015) 「公民教育:学校德育的基本与突破」, 『教育探索』第 12 期,106-107 頁。
- 中国共産党中央委員会 (1994) 『愛国主義教育実施要綱』。
- 中華人民共和国教育部 (2001) 『義務教育課程設置實驗プラン』。

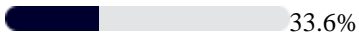
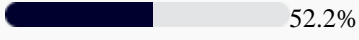

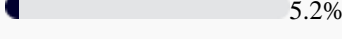
資料

中国の「道德、道德教育の状況に関するアンケート調査」の質問項目など

問1 あなたが該当するのは下記のどちらですか。

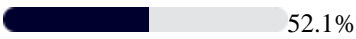
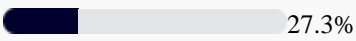

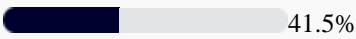
選択肢	人数	構成比
教師	137	 13.7%
小学生	38	 3.8%
中学生	85	 8.5%
保護者	302	 30.2%
大学生と社会人	438	 43.8%
全体	1000	

問2 小中学校における道德教育について満足していますか。

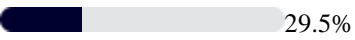
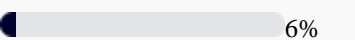

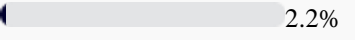
選択肢	人数	構成比
1 満足している	336	 33.6%
2 あまり満足していない。	522	 52.2%
3 満足していない	90	 9%
4 私と関係ない	52	 5.2%
全体	1000	

問3 子供に対して最も関心があるのは何ですか。(複数回答可)

(児童・生徒の場合、自分にとって何か最も大事であると思いますか。)



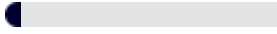
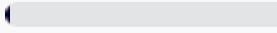
選択肢	人数	構成比
1 身体の健康	521	 52.1%
2 学業成績	273	 27.3%
3 道徳的素養	606	 60.6%
4 精神力	415	 41.5%
全体	1000	

問4 子供にどんな形で道徳教育を行うのが一番有効であると思いますか。

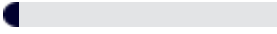
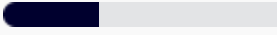

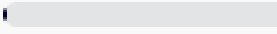
選択肢	人数	構成比
1 学校の授業中あるいは家庭生活の中 に行う	295	 29.5%
2 道徳の時間を通して行う	60	 6%
3 自らの行動で模範を示す	623	 62.3%
4 その他	22	 2.2%
全体	1000	

中国義務教育段階の道德教育の課題と対策






問5 道德の時間の設置は、道德的な人格形成の養成に影響すると思いますか。

選択肢	人数	構成比
1 良い勉強になり、影響が非常にある	510	 51%
2 一定の影響はある	412	 41.2%
3 授業の後はずぐ忘れてしまい、影響はない	58	 5.8%
4 その他	20	 2%
全体	1000	






問6 知識的教育と道德的教育のどちらが重要だと思いますか。

選択肢	人数	構成比
1 知識的教育	50	 5%
2 道德的教育	337	 33.7%
3 どちらも重要である	605	 60.5%
4 分からない	8	 0.8%
全体	1000	

問7 家庭で年配者を尊敬し、幼い子供を保護すべきであるなどの良い習の養成のためにしつけをしていますか。

選択肢	人数	構成比
1 よくする	802	 80.2%
2 時々する	163	 16.3%
3 ほとんどしない	23	 2.3%
4 全然しない	3	 0.3%
5 その他	9	 0.9%
全体	1000	

問8 家庭における道徳教育と学校における教育のうち、どちらが重要だと思いますか。

選択肢	人数	構成比
1 家庭での道徳教育	177	 17.7%
2 学校での道徳教育	22	 2.2%
3 両者は必要不可欠で、同様に重要である	785	 78.5%
4 分からない	7	 0.7%
5 その他	9	 0.9%
全体	1000	

中国義務教育段階の道德教育の課題と対策

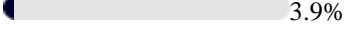


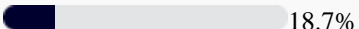
問9 痰を吐いたり、言葉つがいが乱暴だったり、列に割り込んだりする現象をよく見ますか。

選択肢	人数	構成比
1 たまに見かける	532	53.2%
2 よく見かける	415	41.5%
3 あまり気にしていない。自分と関係ない	20	2%
4 見たことがない	33	3.3%
全体	1000	


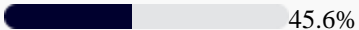
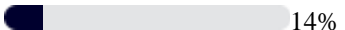
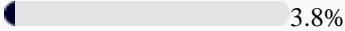
問10 自分がたまに道德的でない行為をする場合、その原因は何だと思えますか。(複数回答可)

選択肢	人数	構成比
1 社会の良くない影響を受け、他人がするので自分もしてしまう	603	60.3%
2 個人の習慣なので、他人とは関係ない	123	12.3%
3 自分を律するのは嫌なので、好きなように振る舞う	143	14.3%
4 無意識的な行為である	276	27.6%
5 その他	96	9.6%
全体	1000	

問 11 バスやタクシーの中で貴重品の落とし物を見たら、どうしますか

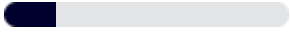

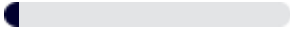
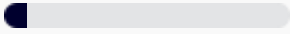
選択肢	人数	構成比
1 自分のものにする	39	 3.9%
2 運転手に渡す	729	 72.9%
3 見てないふりをする	45	 4.5%
4 状況を見て、判断する	187	 18.7%
全体	1000	

問 12 ボランティア活動に参加したことがありますか


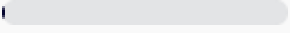
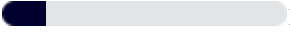
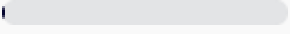
選択肢	人数	構成比
1 参加したことがある。とても好きである	366	 36.6%
2 参加したことがない。興味があるが、参加する機会がない	456	 45.6%
3 参加したくない。あまり興味がないし、意味がないと思う	140	 14%
4 その他	38	 3.8%
全体	1000	

中国義務教育段階の道德教育の課題と対策

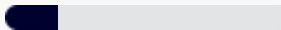
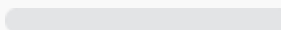
問 13 他人との関係において、あなたはどのように考えていますか

選択肢	人数	構成比
1 他人を優先する	190	 19%
2 できるだけ他人を手伝う	676	 67.6%
3 自分の利益を最優先にする	54	 5.4%
4 その他	80	 8%
全体	1000	


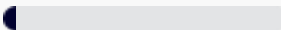
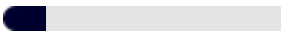
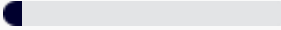
問 14 バスや地下鉄など公共の場所で立っているお年寄りに会ったら、積極的に席を譲りますか。

選択肢	人数	構成比
1 譲る	816	 81.6%
2 譲らない	13	 1.3%
3 状況を見て判断する	158	 15.8%
4 気分によって決める	13	 1.3%
全体	1000	

問 15 授業、仕事などの終了時、積極的に電気やクーラーなどを消し、節電に努めますか。





選択肢	人数	構成比
1 必ず消すように気を付けている	792	 79.2%
2 消すようにしているが、忘れるときもある	186	 18.6%
3 あまり気にしない	16	 1.6%
4 全く気にしない、点けたままでもいい	6	 0.6%
全体	1000	

問 16 公共の場で喫煙する人をどう思いますか







選択肢	人数	構成比
1 とても嫌である	732	 73.2%
2 たばこをやめるように説得する（そのような気持ち）	48	 4.8%
3 納得できる	154	 15.4%
4 どうでもいい	66	 6.6%
全体	1000	

中国義務教育段階の道德教育の課題と対策

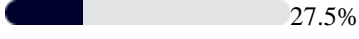
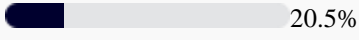

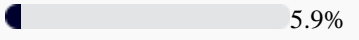
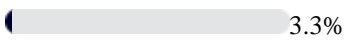
問 17 公共の場では、言葉遣いに気を付けていますか？

選択肢	人数	構成比
1 とても気になり、必ず気をつける	859	 85.9%
2 気を付けてない	12	 1.2%
3 気にするよう努力している	116	 11.6%
4 気を付ける必要がない、全然気にしない	13	 1.3%
全体	1000	

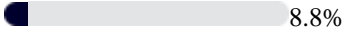

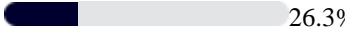
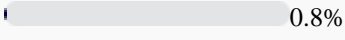
問 18 現代社会において最も欠けているものは何だと思えますか。(複数回答可)

選択肢	人数	構成比
1 人間関係における誠実さと信頼感	718	 71.8%
2 お互いに思いやる気持ち	399	 39.9%
3 社会規範と法律による制約	267	 26.7%
4 大自然を愛することと命を尊重する意識	277	 27.7%
5 知識と文化的な資質	299	 29.9%
6 物質的な豊かさ	62	 6.2%
全体	1000	

問 19 現在の小中学生の道徳的な状況をどう思いますか。

選択肢	人数	構成比
1 よい。一部に良くない子供がいるが、多くの子供は道徳的である	275	 27.5%
2 あまりよくない。生徒の多くは表面的に道徳的な態度をとっているだけである	205	 20.5%
3 よくない。大きな問題が存在する	428	 42.8%
4 非常に良くない。普遍的に道徳レベルは低く、教育を徹底すべきである	59	 5.9%
5 その他	33	 3.3%
全体	1000	





問 20 我が国の国民の道徳的な素養はどうだと思いますか。

選択肢	人数	構成比
1 非常にいい	88	 8.8%
2 普通である	641	 64.1%
3 よくない	263	 26.3%
4 分からない	8	 0.8%
全体	1000	





中国義務教育段階の道德教育の課題と対策

問 21 中国社会に道德的な意識が欠落している原因は何であると思いますか。

(複数回答)

選択肢	人数	構成比
1 社会全体の良くない風潮及び公共意識の欠落	884	 88.4%
2 保護者・年長者または教師の道德的な意識の低さ	477	 47.7%
3 メディアの報道と世論の誘導	509	 50.9%
4 その他	214	 21.4%
全体	1000	

問 22 「優秀な人」とはどのような人だと思えますか

選択肢	人数	構成比
1 学業成績が最重要である	31	 3.1%
2 道德的な素養が最重要である	192	 19.2%
3 学業成績と道德的素養が共に優秀である人	745	 74.5%
4 その他	32	 3.2%
全体	1000	

問 23 自分の道徳的素養はどうであると思いますか。





選択肢	人数	構成比
1 非常にいい	409	40.9%
2 普通である	573	57.3%
3 よくない	15	1.5%
4 とてもよくない	3	0.3%
全体	1000	

問 24 緊急事態におかれた人がいる場合、助けたり手伝わず傍観する人はどんな心理だと思いますか。




選択肢	人数	構成比
1 責任感がない、道徳的観念が無い	139	13.9%
2 手伝いたいが、巻き込まれないか心配のだと思う	739	73.9%
3 自分とは関係ないので、手伝う必要はないと思っている	100	10%
4 その他	22	2.2%
全体	1000	

中国義務教育段階の道德教育の課題と対策

問 25 金銭・利益のために反道德的な行為をどのように思いますか。

選択肢	人数	構成比
1 全く賛同できない	711	 71.1%
2 状況によっては賛同できるかもしれない	181	 18.1%
3 賛同する。金銭や利益は最重要である	27	 2.7%
4 自分とは無関係なので、別にどうでもいい	81	 8.1%
全体	1000	

問 26 現在の中国の道德的な状況は、もっと法律的（法制法規）な制約を強めるべきだと思いますか。

選択肢	人数	構成比
1 強めるべきである	909	 90.9%
2 いいえ、強める必要はない	65	 6.5%
3 分からない	26	 2.6%
全体	1000	